

悠遠き日にあこがれて

(昭和二十五年寮歌)

高倉和昭君 作歌
金井俱光君 作曲

一

悠遠き日にあこがれて
吾は来たりぬ
北国の詩の都ぞ
やはらかき緑の芝生
美はしき小川の畔
清明の森蔭深く訪ね来て
新らしき喜びに満つ

二

讃へなむ石狩の
曠野に打建てし
雄大なる先人が足跡
四十三回記念祭巡りて
光栄あれ伝統の法燈
星辰清きエルムの学園に甦へりたる
鐘の音は高く鳴るなり

三

あかつきは紫の
夢にけむれり
雪解なる陵にのぼりて
恋ひ慕ふ意気と血汐の
花香る青史の光栄よ
二春を魂の故郷に契りては
培はん尊き遺訓

四

仰ぎ見よ秀でたる
久遠の山河
悠久の時の移ろひ
森蔭に心情は燃えて
恵むなり真理の秘奥
青春の高遠き理想を抱きては
進まなむ厳しかる道